

「萩市基本ビジョン（案）」に対するご意見の概要と市の考え方

「萩市基本ビジョン」は、萩市の将来像やまちづくりの方向性を市民と共有し、市民と行政が一体となって進めるまちづくりの指針としているため、具体的な取組に係るご意見等については、個別の事業を展開する中で検討していきます。

No.	ご意見の分野	ご意見の概要	市の考え方
1	だれからも愛されるまち、求められるまちづくり	<p>○性的少数者に対するガイドラインの作成及びパートナーシップ制度の導入</p> <p>萩市は、「萩市基本ビジョン」にもあるように、人口減少が今後も続くことが予想されている。そのような社会・地域情勢において、萩市民1人ひとりが今まで以上に住み慣れた環境の中で大切な家族や友人と暮らし、障がい者や高齢者、外国人等も自分らしく能力を発揮し、全ての市民が萩市のまちづくりに参画することが重要となっている。なかでも性的少数者は、人口の5%～程度いると民間の大学の調査で言及されている。萩市においても数千人程度の性的少数者が暮らしているものと予想されるが、社会全体の認知度は向上しているものの、周囲の無理解や偏見から言い出せず、また見た目の性別と書類上の性別の違いから公的機関を利用することをためらい、自分らしく暮らすことが困難となっている人もいる状況である。そして同性愛者を中心に、パートナーに対する医療行為に同意できない。市営住宅に夫婦として入居できない。パートナーシップ制度がないために民間の保険サービス等を利用できないなどの不都合もあり、将来を見通して安心することが困難となっている。</p> <p>このため、「だれもが生きいきと暮らせるまちづくり」「だれからも愛されるまち、求められるまちづくり」に参画するために、①性的少数者に対するガイドラインを作成し研修を経ることで、市役所等の窓口対応を改善する。②公共トイレのバリアフリー化及び多目的化③パートナーシップ制度の導入について、基本ビジョンに明記する。をお願いしたい。</p>	<p>『だれからも愛されるまち、求められるまちづくり（市民一人ひとりが輝くまちづくり）』に「性的少数者」に関する内容を追記させていただきました。</p> <p>公共トイレのバリアフリー化については、『だれもが生きいきと暮らせるまちづくり（障がい者の社会参加の促進）』に記載のとおり、ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりに取り組んでいきます。</p> <p>なお、萩市では、平成30年度から性的少数者に配慮した取組を推進するため、市で取り扱う各種申請書やアンケート等における性別記載の見直しを進めています。また、人権教育指導者養成講座において性的少数者をテーマとした講座も計画しています。</p>
2	だれもが生きいきと暮らせるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が生きいきと張り合いをもって過ごせるように。 ・高齢者を小さな子どもから大人まで、みんなが敬う社会にする。 ・高齢者と子どもたちが定期的に交流できるようにする。 	<p>『地域ぐるみの助け合い「地域包括ケアシステム」の深化・推進』に記載のとおり、住み慣れた地域で生きがいをもって暮らし続けることができるよう人にやさしいまちづくりに取り組んでいきます。</p> <p>なお、萩市では、高齢者が地域社会の一員として参加する地域ささえあい協議体の設置、放課後子ども教室への参加、保育園での伝統芸能保存活動等を通じて高齢者と子どもたちの交流に取り組んでいます。</p>
3	子育ての幸せが実感できるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・おんぶの復活 <p>ここのところ抱っこが流行しているが、情緒の安定、体の発育など赤ちゃんの発育にはおんぶの方がいいといわれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と赤ちゃんの触れ合う場をつくる。 	<p>『妊娠・出産・子育て環境の充実』に記載のとおり、子育て世代包括支援センター（HAGU）において様々な子育てに関する相談の受付を行っています。</p> <p>育児の方法は、各家庭のライフスタイル、環境、考え方等により様々ですが、必要に応じて助言を行うなど子育ての支援に取り組んでいきます。</p>
4	未来を担う人を育むまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人としての素養（礼節、国語、包容力、真面目）を身に付ける教育をする。 ・幼少の頃から英語を学ばせるところもあるようだが、将来、使えるようになった英語で何を語るのだろうか？いくら英語ができて日本人としての素養を持っていなければ外国人からしてみれば何の魅力もない。 	<p>『「志」教育の推進』に記載のとおり、社会に貢献できる人材の育成に取り組んでいきます。</p> <p>また、『新しい時代に必要となる資質・能力の育成』に記載のとおり、英語に限らず、子どもたちの可能性を広げていくため、新しい時代に対応した資質・能力の育成に取り組んでいきます。</p>

No.	ご意見の分野	ご意見の概要	市の考え方
5	産業活力があふれるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・萩は学びの場なので学びたい人が集まるところにする。 ・自動運転の試験に萩の街と自動車専用道路を使ってもらおう。 ・メタンハイグレード調査の協力をする。 ・スーパーコンピューターの誘致 ・宇宙エレベーター関連企業の誘致 ・農林水産物は安全（無農薬、無添加など）が絶対条件 ・小・中・高生に農業への理解の一環として農作業などをしてもらう。 ・自然農法を行い、農作物の種はF1種（品種改良）を止め固定種を使う。 	<p>『企業・創業と企業誘致の推進』に記載のとおり、新たな事業分野も含めて産業活力の創出に取り組んでいきます。</p> <p>現在、「地域産業振興」に関する構想の策定に向けて取り組んでおり、いただいたご意見については、構想に基づく事業を展開する中で参考にさせていただきます。</p> <p>なお、萩市では、「農下村塾」と題し、小中学校において田植えや稲刈りの体験学習にも取り組んでいます。</p>
6	魅力ある歴史・文化・自然をいかしたまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・世界的にも珍しい形態である萩沖にある島々の存在を国内外の地質・火山学者に紹介して調査などに来てもらう。 	<p>『萩ジオパーク構想の推進』に記載のとおり、地質遺産を守り活用するジオパークの取組を推進していきます。</p> <p>なお、萩六島を含む阿武単成火山群については、萩市と包括連携協定を結ぶ山口大学において、卒論生のテーマや、地質技術者を対象とする講習会の巡検場所として活用しています。</p>
7	生活基盤の充実したまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギーは問題あり。 	<p>『地球にやさしい循環型社会づくり』に記載のとおり、低炭素社会の構築に向け、国の動向を踏まえ、萩市の実情に応じた取組を進めていきます。</p>
8	産業活力があふれるまちづくり	<p>長い間、農業・水産業・林業の移り変わりや人口減少を見つめてきた。特に漁業に関しては、若い漁師や後継者がいないという声を多く耳にする。就労セミナー等の行政の新規就業対策等により、須佐漁港にも3名の該当者がいるものの、廃業する漁業者は増え、須佐漁港の過疎化が進んでいる状況にある。それを少しでも防ぐため、地元事業者がその船を引き取り、海洋レジャーに利用できるよう整備・所有しながら情報発信をしてる。このことにより、他県より来訪し利用される方や、ご家族で楽しめるようにと船に加え住居も所有された方もいる。</p> <p>地元の漁業関係者からは、漁業者が自分の船を所有し、漁をするうえで一番の安心感は、洋上での故障や上架メンテナンスに対応できるシステムと業者が、地元漁港にあるということだ、との声がある。</p> <p>しかし、この地元事業者が高齢化により事業の継続が困難になった場合、須佐漁港の船舶は整備する場所を失うこととなる。そのため上架システムを行政で所有していただき、市民がそれを運用できるよう要望する。</p> <p>過疎地に住む人が地元で医療所の存続を願うよう、船舶所有者は船の整備ができる場所の存在を願っている。みんなでこの須佐漁港を守っていきたいのです。「男命いか」ブランドをはじめ須佐の水産業を担う漁業者が、これからも船舶整備に不安のないよう、行政の力を貸してもらおうことを願う。</p>	<p>『力強い農林水産業の推進』に記載のあるとおり、持続可能な力強い農林水産業の振興に向けた取組の中で、地域や漁業関係団体等とも調整しながら、生産基盤の充実に向けたような手法が考えられるのか研究していきます。</p>
9	未来を担う人を育むまちづくり	<p>欧州では日本という中等教育に入る直前くらいから自分の進む道を考え始めそれに沿った進路を取ると現地の方から聞き、自分の経験からも共感したことがある。制度や環境の違いはあり一概に言えないが人生の早い段階で将来を考えるよう啓発させる取組をしては如何か。</p>	<p>『「志」教育の推進』に記載のとおり、社会のために役立つ人間になるうとする志教育の推進に取り組んでいきます。</p> <p>また、『萩の未来を支える教育機会の充実』に記載のとおり、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる「キャリア教育」を推進していきます。</p> <p>なお、萩市では、職業体験をはじめ、小中学生による志（将来、どのような仕事を通して人や社会の役に立っていくのか）の発表など、将来の進路を考える機会を設ける取組を行っています。</p>

No.	ご意見の分野	ご意見の概要	市の考え方
10	産業活力があふれるまちづくり	所得が低いので他地域への転出はあっても転入が少ないのが現実だと思う。県内でも低い所得の地域に起業希望の以外の方は移住しようとは思えないのでは。10年単位で見てもほぼ横ばいの所得は今後も増加するとも思えないため、一般労働者の方たちは副業で所得の底上げをする必要があるのではと思う。産業振興や事業者のみならず一般労働者の所得の底上げも重要と思うため、世にある様々な副業を事業者と共に一般労働者の方たちに推奨してみてもどうか。	『地域のにぎわいを取り戻す地場産業の再生』、『起業・創業と企業誘致の推進』、『企業人材の育成と雇用拡大の支援』に記載のとおり、利益を生み出す仕組みづくりや、地域を牽引する事業の創出などにより、所得の向上に取り組んでいきます。 いただいたご意見については、個々のワークスタイルに対する考え方となりますが、関係団体等とともに研修していきます。
11	魅力ある歴史・文化・自然をいかしたまちづくり	モナコ公国やコートダジュール地方は、交通の便は悪いが夏場は長期滞在の観光客で溢れていた。リゾート地のイメージ作りをしては如何か。	『観光地経営の視点に立った観光地域づくりの推進』に記載のとおり、萩版DMOを舵取り役として多様な関係者と連携しながら、観光戦略を推進していきます。 従来からの歴史・文化資源をいかした観光に加え、観光消費拡大のための滞在型観光の推進により、国内外の観光客の誘致拡大などに取り組んでいきます。
12	だれもが生きいきと暮らせるまちづくり	持続可能な医療体制の構築の中で、限られた地域医療資源を最大限に活用するところがあるが、これは高齢者医療についてだけの話なのか？ 交通外傷などの緊急時や一刻を争う疾患などの急性期対応が現状では安心できない。救急車を呼ぶ際に、今日の当番医がどこなのか不安を感じる。民間と市立の病院どちらも診療科目が中途半端なので一体化して安心して受診できる病院になってほしい。	『持続可能な医療体制の構築』については、高齢者医療に限定したことはありません。 萩市は、中山間地域や離島を抱え、医師や看護師等の医療従事者など医療資源が限られていることから、ご意見のありました急性期医療も含めて、関係機関と連携し、持続可能な医療体制の構築に取り組んでいきます。
13	子育ての幸せが実感できるまちづくり	HAGUや児童館、陶芸の村公園、ウェルネスパークなど萩市には子育て世代には助かる場所が多数あるが、どこのトイレも子連れに優しいようには感じない。子どもと来ることを想定しているはずなのに子ども用便座がないこと、トイレが狭いことなど実用的でない。 また、仕事と子育ての両立支援とあるがそれぞれの保育園において子どもの体調不良時の対応に差があると感じる。熱がでたらすぐに連絡が入る、できればお休みしてください。などと保育園から言われると仕事を休まざるを得ない。大したことはないと思うからこそ、病児保育に預けるのが逆にしづらい。	『子どもたちの笑顔があふれる居場所づくり』に記載のとおり、子どもの生活や遊びの場の充実に取り組んでいきます。 ご意見をいただいたトイレについては、施設の改修等に合わせて子育て世代にも配慮した整備手法を検討していきます。 また、病児・病後児保育については、『妊娠・出産・子育て環境の充実』に記載のとおり、保護者のニーズに応じた利用しやすい子育て支援サービスの充実に取り組んでいきます。 なお、萩市では国が定めた指針や感染症対策ガイドラインに基づき、保育園では保護者にお迎えをお願いすることがありますが、仕事の都合で保護者の対応が難しい場合は、園の医務スペースで静養させることとしており、子どもの体調不良時における対応については、それぞれの保育園に対して徹底していきます。
14	産業活力があふれるまちづくり	農林水産業のことが主体で窯業のことが一切ない。他の窯業の産地には窯業試験場があり、日々の新しいことに挑戦しているが萩にはそのような機関がないため大きな発展がなく個々に任されている。このままでは衰退し、萩焼が歴史上のものになってしまう可能性がある。400年の歴史があるものなのでもっと市をあげて取り組んでもらいたい。	『地域のにぎわいを取り戻す地場産業の育成』に記載のとおり、窯業を含め、活力ある地場産業の再生に取り組んでいきます。 なお、萩市では、商工政策部内に萩焼・陶芸係を設け、萩焼の振興に努めており、現在、国の事業も活用し、萩焼と他業種の連携により双方のブランド力の向上を目指しています。

No.	ご意見の分野	ご意見の概要	市の考え方
15	だれからも愛されるまち、求められるまちづくり	市民こそが萩市の魅力を感じているだろうか？萩のことを知っているだろうか？身近すぎて、当たり前すぎてその偉大さに気づいていない。このようなことをする前に、萩市民が萩ってすごいんだよ！良いところなんだよと外部の人に言えるようになるための取組が必要に思う。	『だれからも愛されるまち、求められるまちづくり』に記載のとおり、市民の皆さんとともに「暮らし続けたい」と思われるような魅力ある地域づくりに向けて取り組んでいきます。 また、「文化のおたから、自然のおたから、産業のおたからの再発見・継承」に記載のとおり、各地域のおたからを市民協働により再発見するとともに、保存・継承するなど、萩の魅力を広く内外に伝える取組を進めていきます。
16	子育ての幸せが実感できるまちづくり	夜の仕事を頑張るひとり親のために対して夜間の保育など、夜間でも子供を預けて安心して働ける環境があればよいのではないか。	『仕事と子育ての両立支援』に記載のとおり、個々の家庭の状況に応じた子育てサポートの充実に取り組んでいきます。 夜間保育については、平成19年度から中国地方の自治体では初めてとなる24時間保育を萩市では実施しており、毎年延べ300人前後の児童が利用しています。
17	産業活力があふれるまちづくり	旧萩地域では小規模面積の農地が多い為作業能率を上げられる大型機械や大型ハウスなどの導入ができないということがある。そのため山陽側などの大規模区画整備農地と比べ面積当たりの作業時間は多くなるが収益は少ないという状況であり、これでは新規就農をしたいと思う人が萩地域を選択肢に入れることはない。 いくら担い手や後継者の育成に力を入れても、萩で就農する人自体が少ないのでは意味がない。そのためまずは農地の区画整備や経営規模拡大を促し萩市で専業農家として安定した生活が送れるための施策が必要だと考える。	『力強い農林水産業の推進』に記載のとおり、意欲的に取り組む経営体に対する支援とともに、生産基盤の充実を促進し生産性の向上に取り組んでいきます。 なお、萩市では、田万川・旭地域において、担い手への農地集積・集約を促進するため、農地の大区画化や汎用化（畑作目が栽培できるよう水田を整備）等の農地整備を行っているところです。
18	子育ての幸せが実感できるまちづくり	扶養控除において対象が16歳以上からとなっているが16歳未満のお子様がいる母子家庭及び父子家庭は対象年齢の引き下げもしくは、保育費、学費等の特別控除があると良いのではないか。	『仕事と子育ての両立支援』に記載のとおり、ひとり親家庭の自立を支援し、個々の家庭状況に応じた子育てや生活、就業、子どものサポートなど総合的な支援の充実に取り組んでいきます。 扶養控除については、平成22年度税制改正による子ども手当の創設に伴い、年少扶養親族（16歳未満）に係る扶養控除は廃止となりました。 ひとり親家庭の支援としては、児童扶養手当のほか、ひとり親家庭を対象とした保育料基準を設け、保育料の軽減などを行っています。
19	産業活力があふれるまちづくり	萩市の産業は、人口減少や少子高齢化を背景に後継者不足が深刻化し厳しい状況である。現状を踏まえ、地域産業再生の為「人」「物」「情報」の交流の場を提供し、同業種・異業種問わず興味のある企業同士が、販路拡大や新商品・コラボ商品開発等、新たなビジネスチャンスに繋げる道しるべとしてビジネスマッチングを計画出来ないか。また、後継者問題の面からも、友好的なM&Aとして途絶えさせてはいけない技術継承も行えばと思う。 現在金融機関を通じてビジネスフェアというイベントが毎年開催され、県内企業が出展し自社の特色ある商品や技術を県外や海外企業に向けてPR・商談を行い、販路拡大の実績が出ている。 身近な市内の企業同士であっても、相手の事を知り、普段気付かない魅力に気付くことが出来れば、萩産品のブランド戦略としては良いのでは。	『地域のにぎわい取り戻す地場産業の再生』に記載のとおり、萩産品のブランド戦略を再構築し、付加価値の向上や販路拡大による利益を生み出す仕組みづくりに取り組んでいきます。 ご意見のありましたビジネスマッチングについては、関係機関と連携しながら取り組んでいきます。

No.	ご意見の分野	ご意見の概要	市の考え方
20	めざすまちの姿	「めざすまちの姿」について、「輝くひと みなぎる産業活力 きらめくまち 萩 ～暮らしの豊かさを実感できるまちをめざして～」は、長いように感じる。	『めざすまちの姿』で、萩市が将来めざすまちの姿をかかげていますが、「輝くひと みなぎる産業活力 きらめくまち 萩」を説明文に盛り込み、キャッチフレーズを「暮らしの豊かさが実感できるまち」としました。
21	基本ビジョンの背景	○少子高齢化に対する危機感が感じられない。 平成29年9月末現在の萩市の「男女別・年齢別人口ピラミッド」を全市民に公開し多くの切り口（小中高生、大学、各種・地域団体、企業、事業組合等）から対応策を求めることが必要と思う。良い意識付けになると思う。 15年前後前に『このまま人口が減って事業収益が確保できない場合、萩市にある大手スーパーは撤退する』と市に伝えたことがあるが、これは確定的事実になりそう。 人口ピラミッドは表紙にしても良いほどのもの。何もしない場合の10年後、20年後、30年後の予想図も添えてみては如何か。	『萩市基本ビジョン策定の背景』に記載のとおり、人口減少は、私たちの暮らしにも大きな影響を与えることとなり、地域経済、産業活動の縮小や、一定の人口規模のうえに成り立っている小売、飲食、医療などの日常生活に必要なサービスの撤退に繋がるおそれがあります。こうした状況を市民と行政が十分認識した上で、効果的な対策を講じるため、この度「萩市基本ビジョン」を策定することとしました。 なお、毎年3月、9月末現在の男女別・年齢別人口ピラミッドを市ホームページに掲載するとともに、長期的な将来人口の予測は「萩市人口ビジョン」により公表しています。
22	産業活力があふれるまちづくり	人口対策と同意義の「産業再生・起業創業・後継者」を一括りとし、民生部門とは一線を画すことが必要。これは事業主体が異なるから。 『餅は餅屋』という言葉がある。 例えば、専業農家を起業するとして、A作物を主体として、+B作物、+C作物、+etcで年間収益を〇〇万円上げられる計画を立てられるのはJA。同じく、漁協、その他であり、行政ではない。「産業活力があふれるまちづくり」にある表現はすでに各業界・団体・組合などの協議が完了していつでも実行に移せる段階にあると判断して読みましたが、もしそうでなければ、大きな問題ともなりかねない。 行政にできるのは農林水産省、県の農林水産各課、農林水産関連団体との連絡調整でしかないのではないだろうか？ 出来ることがあるとすれば、国県の補助金情報と地域の状況を熟知し活用できる補助金等を提言するくらいか。	『産業活力があふれるまちづくり』に記載のとおり、農協をはじめ漁協、商工関係団体など様々な関係機関や、国県とも連携しながら、産業の振興に取り組んでいきます。
23	だれからも愛されるまち、求められるまちづくり	合併時に、旧町村に『これからは地域アイデンティティに観光を一層加味して 地域活動を』と徹底すべきだったかもしれませんが、今改めて、『地域アイデンティティ+観光』を再構築・徹底してみては如何だろうか。	『地域の特色をいかしたまちづくり』に記載のとおり、地域住民とともに地域振興計画「夢プラン」を策定し、地域の特性をいかしたまちづくりを進めていきます。
24	産業活力があふれるまちづくり	人口対策と産業・地域振興を解決する方法は、『餅屋に任せる』こと。移住者ではなく、新規従事者。最も良いのは親族の事業後継者。これまでの「事業計画・資金計画を審査して資金融資する＝トーナメント表の〇番枠にはめるのではなく、いきなりベスト8、ベスト4、準優勝・優勝させる」完全無欠の対策が必要ではないか。	『地域産業の担い手・後継者育成』に記載のとおり、新規就業者の円滑な就業支援とともに、後継者等による円滑な事業継承の支援に取り組んでいきます。
25	その他事項	県庁の各課と上手に付き合い情報と実利を手にするごと。	「萩市基本ビジョン」をまちづくりの指針として、山口県をはじめ、国や関係団体と連携しながら効果的な取組を進めていきます。